

工業俱楽部

KAGOSHIMA INDUSTRIAL CLUB

3

2007/No.36



(社)鹿児島県工業俱楽部
会長 川崎暢義

工業俱楽部の今後の方向性について

工業俱楽部にとって、昨年最も特筆すべきことは、鹿児島大学との連携協力協定にもとづき、農学部、水産学部、医学部へのラボツアー及び教員の企業訪問、並びに長・短期インセンシップのあり方、留学生の県内企業への就職マッチングの検討等を行ったことあります。いわば、組織的な产学連携の幕開けの年でありました。

今年は、昨年培った信頼関係をより強めながら、具体的な成果があがるような連携を目指していきたいと思っております。

さて、九州経済産業局では、九州の経済成長戦略にのっとり九州における第3の産業クラスターとして、昨年からバイオクラスター可能性調査を行ってまいりました。その結果、短期的(2~3年)で目に見える成果(成功事例)群を作り出すことが重要であるとの考え方から機能性食品、健康食品分野に軸足を置いて、地域資源・未利用資源を活用しつつ、フード、健康アイランド九州の構築を目指すことになりました。

幸いなことに、鹿児島県にはバイオクラスター形成に当たって高いポテンシャルがあります。

焼酎、黒酢、漬物など伝統的な発酵関連技術の集積。豊富な農林水産資源による食品関連産業の集積。南北600kmに及ぶ県土の豊富で多様な生物資源の存在、などなど。

この事業は、当県にとって内発的な産業振興に大いなる追い風となることが明らかであります。

工業俱楽部といしましては、会員のみなさまとの草の根コミュニケーションを通して、可及的すみやかに産学官によるバイオクラスター構築の研究開発推進体制づくり、迅速安価な医学的エビデンスに基づく機能性評価システムの確立、円滑な資金調達のためのシステム構築、人材育成等の具体的な課題解決に向けた場づくりが必要であります。

みなさまの積極的な参加、発言を心から期待しております。

事務局だより

1 平成19年度工業俱楽部総会

- ・日 時：平成19年5月28日（月） 総会 15：00～ 記念講演 16：20～ 交流会 17：30～
- ・場 所：国際ジャングルパーク「ペイサイドガーデン」 鹿児島市与次郎1丁目7-18 TEL：099-256-1515
- ・記念講演：講師：JSTイノベーションサテライト宮崎館長 黒澤 宏氏
※JST=Japan Science and Technology Agency(科学技術振興機構)

「JSTイノベーションサテライト宮崎」は、独立行政法人科学技術振興機構の地域拠点として、九州では福岡プラザに次いで平成17年10月、宮崎大学の中に設置されました。

鹿児島・宮崎両県の“基礎研究から事業化”までを一貫して所管しており、シーズ開発研究@200万円をはじめ、委託開発@1億～20億円まで豊富な資金を活用して、地域の産学官交流、研究成果の育成等を通じた地域経済活性化、新事業の創出に貢献することを目指しています。

・講師紹介

「黒澤 宏」氏は、レーザーに関する研究で有名で、宮崎大学教授、宮崎大学地域共同研究センター長を経て、JSTイノベーションサテライト宮

崎館長に就任されました。館長として、宮崎～鹿児島を頻繁に往復し、鹿児島の応援にも砕身しておられます。

子供やお母さん方に科学に親しんでもらえるよう「スーパーサイエンスハイスクール」や「サイエンスカフェ」など、宮崎ではユニークな取組みを続けておられます。

難しい科学を“やさしく明るく楽しく”語られますから、今回の講演は、“乞うご期待！”です。

2 ちいき経済賞（総務省認可の社団法人地域経済総合研究所主催）

曾於市の日本有機(株)の薩摩鴨、サツマイモ冷麺、くろず納豆などの商品開発が評価されて、去る3月2日、東京で野口愛子社長が“ちいき経済賞”的クリエイティブ活力賞を受賞されました。この賞は今回が12回目ですが、鹿児島からの受賞は初めて。

現在は、鹿大でのラボツアーの成果として、トルコギキョウの自由な発色技術を用いた種苗・育成ビジネスを中国を中心とした海外で展開中。新分野や新事業に対する前向きな取組みは止まるところを知りません。おめでとうございました!!今後も楽しみです。

CONTENTS

会長挨拶・事務局だより	1
DESIGN HOT NEWS・食関連 NEWS	2,3
産学官連携・鹿児島大学工業俱楽部賞	4,5

「志布志市地球温暖化防止活動実行計画」について・

志布志市バイオマスマウン構想	6
広 告	7
新規会員情報	8

‘かごしまデザインコンペ2007’ 報告

株式会社フォーエム
代表取締役 森重 匡世

今回も昨年に引き続き、かごしま県民交流センターで「売りたい鹿児島」をテーマに、2月23日から25日まで‘かごしまデザインコンペ2007’が開催されました。

県内企業からのご提案による新たな鹿児島の特産品となるような商品を募集した「企業課題部門」と(財)かごしま産業支援センターが発行する情報誌の表紙等デザインを募集した「K I S C デザイン部門」での入賞・入選作品を展示し、入賞作品について企業とデザイナーによる公開意見交換会も開催しました。

昨年は丁子屋のパッケージなどトータルでのデザインが展開され、売上げに貢献しました。今回もすぐに商品化したい旨の話もあり、年々実績が出てきております。このコンペを通じて多くのデザインが商品化され、県内企業、デザイナーの活性化に繋がればコンペの目的は果たされていくことでしょう。

同時イベントとして“デザイン&ビジネスフォーラムセミナー”“P A P E R M E D I A”“あかり百人百灯展”“デザイン・ブランドセミナー”“かごしまデザイン協議会のデザイナーズマーケット”を開催・展示し、3日間で約1500名の多くの入場者がありました。

■会場入口



■会場風景



■入賞作品についての公開意見交換会



■デザイン&ビジネスフォーラムセミナー
「紙・デザイン・テクノロジー」への思い



■デザイナーズマーケット(かごしまデザイン協議会)



「K I S C」
最優秀賞
製作
者
野田和信



消費期限と賞味期限について

●傷みやすい食品には消費期限、傷みにくい食品には賞味期限を表示

食品をおいしく、安全に食べられる期限を判断する目安となる「期限表示」に対する消費者の関心が高くなっている。食品の日付表示については、平成7年3月までは「製造年月日」表示が義務付けられていた。しかし、食品の製造・加工技術の進歩により食品の日持ちがよくなり、食品の品質がいつまで保たれるのかがわかりにくくなつたため、製造年月日表示よりも品質がいつまで保たれるのかという期限を表示したほうが消費者に有用ということから期限表示に転換された。

食品の期限表示には「消費期限」と「賞味期限」の2種類がある。

①消費期限

品質が劣化しやすく、製造日を含めておおむね5日以内で品質が急激に劣化する食品に表示するもので、安全に食べられる期限を示している。「消費期限」は次のように定義されている。「定められた方法により保存した場合において、腐敗、変敗その他の品質の劣化に伴い安全性を欠くこととなるおそれがないと認められる期限を示す年月日をいう」

対象となるのは弁当、生めん、食肉、生かき、サンドウイッチ、調理パン、低温殺菌牛乳など。

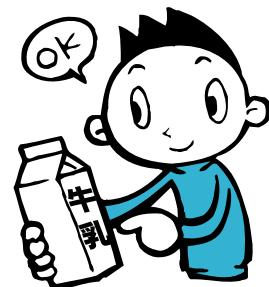
②賞味期限

品質劣化が比較的遅く、「製造日を含めておおむね6日以上日保ちする食品に表示するもので、味などの品質を保証する期限を示している。平成15年7月の表示期限の改正により、「賞味期限」と「品質保持期限」の2つの用語が「賞味期限」統一された。

「賞味期限」は次のように定義されている。

「定められた方法により保存した場合において、期待されるすべての品質の保持が十分に可能であると認められる期限を示す年月日をいう。ただし、当該期限を超えた場合であっても、これらの品質が保持されていることがあるものとする」

対象となるものはスナック菓子、即席めん類、缶詰、牛乳、乳製品など。これらの食品は賞味期限を過ぎても必ずしもすぐに食べられなくなるとはいえない。しかし、期限表示された期日以降は食べられないものと考えて捨ててしまう消費者が多い。「ただし、当該期限を超えた場合であっても、これらの品質が保持されていることがあるものとする。」という文言は、こうした傾向に対し、食品資源の有効な活用などの観点から追加されたものである。



●期限は科学的、合理的な根拠に基づいて設定する

一般的に傷みやすい食品には消費期限、比較的傷みにくい食品には賞味期限を表示する、ということができる。いずれも容器包装を開封する前の期限を示すもので、また記載されている方法で保存されていることが前提条件である。

こうした消費期限、賞味期限を設定するのは、原則として「製造または加工を行なう者」である。期限の設定を適切に行なうためには、食品の特性、品質の変化の要因や製造時の衛生管理の状態、原材料の衛生状態、保存状態などの知見や情報が不可欠である。また、理化学試験（食品の品質劣化を「粘度」や「比重」など理化学的分析法により評価するもの）、微生物試験（食品の品質劣化を「大腸菌数」など微生物学的に評価するもの）、官能検査（食品の性質を視覚・味覚・嗅覚などの感覚を通して評価するもの）の結果など、科学的、合理的な根拠に基づいて期限を設定することが必要である。

（参考：「加工食品に関する共通Q&A」厚生労働省）

『「社団法人 日本洋菓子協会連合会」発行「GATEAUX」07年3月号』より引用



◎産学官関係者による静岡訪問・交流

静岡訪問を終えて(訪問日程 3月8日～10日)

(株)栄電社 代表取締役 満石 公一

昨年2月、静岡県の産業経済交流団が本県を訪問され、静岡県知事を先頭とする250名の方々と、交流を深めることができました。

静岡県の主催で行なわれたのですが、お茶や水産をはじめとして、本県と関連の深い産業部門などを中心に交流は成功裡に終わり、今後ますますこれを深めていくことをお互いに約束しました。

今年は、本県から訪問したい旨相談しましたところ、3月の議会中にも拘わらず快諾していただき、工業俱楽部10名、鹿児島大学3名、鹿児島県1名の総勢14名で行ってまいりました。

知事を表敬訪問した際には、議会開催中のご多忙のところを、懇談の場を設けていただき感激しました。

石川知事のお話では、平成21年3月には静岡空港が開港の予定であり、鹿児島便も創設するので、各分野での更なる濃密な交流を開きたいと強調されていました。

昨年2月に頂いていた静岡空港のバッジを着けて訪問した、当俱楽部・川崎会長は「静岡県の県民所得は鹿児島県の1.5倍あり、学びたいことも多く、今後は産学官の連携に積極的に取組みたい」と述べました。その後、意見交換会をもちましたが、地元の企業4名、静岡県立大学3名、静岡県2名のご参加がありました。

静岡県としては、現在「富国有徳・創知協働」のスローガンを掲げての県民運動を進めており、都市相互が補完連携しながら一体的に経済力を高めていく、多極分担型地域形成にチャレンジしているとの説明がありましたが、県民くらし満足度日本一、所得水準日本一をめざしているとのことでした。

静岡県立大学の木苗教授からは、高付加価値型の機能性食品、医科学品などの説明がありましたが、鹿児島大学の愛甲理事と安部教授が興味をもたれて話が盛り上がり、今後の交流が約束されました。

静岡県の企業のかたからは、2年前から人手不足に悩んでいる話や、工場は立地条件が一番重要であるなどの意見をうかがいました。

懇親会は、県庁最上階の食堂でありましたが、すばらしい眺望と名産の酒に少々酔った次第でした。

翌日は、静岡県のご好意でバスを提供していただき、2名の県職員によって県内企業を案内していただきましたが、現在成長を続けている企業というのは、やはり違う、整理整頓が行き届いており、社員の挨拶や態度も立派だし、社長さんの熱気のも圧倒されました。

収穫の多い訪問がありました。

視察企業

- ①(株)タミヤ (静岡市) ······ プラスチックモデルのトップメーカー
- ②宮川工業(株) (岡部町) ······ プレス加工、金型・通信機器部品製作など
- ③焼津水産化学工業(株) (掛川市) ······ 魚類原料調味料のトップメーカー
- ④(株)マルハチ村松 (大井川市) ······ 鰹だし、機能性食品開発など (本県と既に連携)

研究開発、製造現場管理などに積極的で、かつ厳しく、機敏な印象でした。

静岡から東京までは新幹線で約50分、土地、水など立地条件にも恵まれ、工業に関しては我が国の大企業が数多く立地し、中小企業も首都圏・全国を相手に活発さが際立っていました。

今回の交流を契機として、大学、企業間の連携が生まれることを大いに期待したいものです。

意見交換会参加者

- ・鹿児島大学：愛甲 孝（研究・社会連携担当理事）、
安部淳一（産学官連携部門長）、黒木樹朗（研究協力課）
- ・鹿児島県：間世田春作（産業立地課参事）
- ・工業俱楽部：川崎暢義（日本有機）、岩重昌勝（ユニカラ一）、
満石公一（栄電社）、川田暁史（南日本マイクロコンピューター）、
黒田清忠（ランドワークス）、岩元正孝（カクイ）、
野口愛子（日本有機）、松下謙一（丸松）、藤井 亮（藤田ワークス）、
浜田邦三（俱楽部事務局）
- ・静岡県開発型企業研究会：鈴木泰司（洗心銅鐵工）、
鈴木 諭（新興製作所）、大多和一昭（大学産業）、
海野一人（静岡制御）
- ・静岡県立大学：木苗直秀（食品栄養科学部長）、
横越英彦（食品栄養科学部教授）、増田徳好（事務局経営課長）
- ・静岡県：鈴木妙子（地域産業室長）、望月 誠（企画経理室専門官）
なお、交流懇親会には、企業の方々、静岡県職員、(財)しづおか産業創造機構などから多数参加されました。



屋久島登山環境研究会「屋久島でのトイレ糞尿バイオ分解実証試験の現況について」

先にお知らせしたとおり屋久島登山環境研究会では、車が入れず電気もない山中のトイレ問題を改善するため、屋久島の淀川小屋で便槽内の排泄物をバイオ分解する試験に取り組んでいます。

今回の実証試験は、嫌気的な環境で汚泥等を分解するという菌を月2回便槽に投入・攪拌し、便槽内の固形物量、臭気、便槽内水位等がどのように変化していくかを調査するものです。

従来の一般的な汚泥分解菌は単一菌で構成されていますが、今回の菌は汚泥等を分解する菌、分解菌の働きを助ける菌、臭いを分解する菌など数種類の菌から成る菌群です。

この菌群は糞尿固形物のほぼ全量を炭酸ガスと水に分解し水は蒸発するため、通常汲み取りは不要になります。昨年の9月20日に菌の投入を開始して以来約半年が経過しましたが、実証試験は現在も継続しており、これまでの経過は表のとおりです。

これまでの試験結果で、登山客数に応じた便槽容量と十分な攪拌が確保されればバイオ分解は可能であるということが解ったので、次のステップでは便槽内の攪拌や水分の蒸発を効率的に行うための試験研究をしていきたいと考えています。



菌投入準備作業風景

菌投入(月/日)	固形物量	臭 気	水位(cm)	目 視 確 認 事 項
9/20	少	弱	54	
10/5	少	弱	70	臭気・固形物量とも前回より減
10/20	少	弱	75	臭気・固形物量とも前回よりやや減
11/4	—	—	—	本実証試験と関係なく別途試験的に120リットル汲出ししたこと
11/5	中	弱	80	固形物量が多くなりつつあり、少し硬くなってきた
11/20	中	弱	95	登山客が多いため糞尿量、固形物量とも多くなってきた
12/4	多	弱	106	便槽内の量は多くなっているが登山客は少なくなった
12/27	—	—	95	糞尿量、固形物量とも少しずつ少なくなってきた
1/9	—	微	83	雪が降ったが量は思ったより少なくなっている。臭気も少ない
1/26	少	弱	72	固形物が大分減った。今冬は暖かくこの分なら冬場でも使用可か
2/10	少	微	63	白いカビ状の膜ができるがすぐ壊れる。量は大分減ってきた

- 1 12月初めまで便槽内の量が増え続けた理由は、登山客が非常に多かったうえ便槽内の攪拌回数が月2回と少なく、菌と糞便の接触が十分でなかったためと思われます。
- 2 その後減少傾向に転じた理由は、登山客が大幅に減ったことに加えて11月下旬より攪拌回数を増やしたことによるものと考えられます。

【 平成18年度 鹿児島大学工業俱楽部賞受賞おめでとう! 】

平成17年10月21日に鹿大と当俱楽部が「包括連携協力協定」を締結し、3つの専門委員会を設置したり、ラボツアー、留学生対策・インターンシップの拡充検討を行ったり、各般の取組みを進めています。

このような中、工業俱楽部賞は、大学院生を対象に、技術・事業の高度化、産学官連携、地域の振興・活性化等のために貢献又は寄与する優秀な研究業績をあげた方、2名を表彰する制度です。

平成17年度から、卒業式に学長から賞状と重厚な錫器セット(5万円相当)を手渡ししています。

18年度は、

- 1 理工学研究科 応用化学工学博士 曰高 隆太さん おめでとう!
- 2 農学研究科 生物環境学修士 石川 大太郎さん おめでとう!

のお二人が去る3月23日、鹿大卒業式で特別に表彰されました。

◎日高 隆太さんの研究概要

- ・テーマ「電子デバイスのシーリングを目指したホウ素系鉛フリーガラスの開発」

電子部品等に使用できる鉛フリーの封着用低融点ガラスの開発を、地元企業との共同研究で実施。この研究成果は、半導体レーザーキャップのシール加工に実用化されるなど、地域産業の発展に大きく寄与している。

◎石川 大太郎さんの研究概要

- ・テーマ「リモートセンシングによる茶の生育・品質推定手法に関する研究」

JAと協力し、リモートセンシング(遠隔探査)技術を用いた茶などの肥培管理情報、収量・品質判定結果、気象情報の総合的な分析を通して、本県農業の高度化に大きく寄与している。





「志布志市地球温暖化防止活動実行計画」について

志布志市では、地球温暖化の防止に取り組むために「志布志市地球温暖化防止活動実行計画」を策定しました。この計画は、志布志市職員自らが、一事業者・一消費者として率先して環境保全に向けた取り組みを実行することで、環境への負荷の低減を図るとともに、地球温暖化防止対策の推進を目的としています。

対象は、市の組織に勤務する職員(嘱託・臨時職員を含む)が対象となります。

1. 計画目標(平成17年度実績を基準として)

- (1) 温室効果ガスを、平成24年度までに温室効果ガス総排出量を6%以上削減。
- (2) 用紙使用(購入)量を、平成24年度までに10%以上削減。
- (3) 水道使用量を、平成24年度までに5%以上削減。
- (4) 廃棄物の最終処理量を、平成24年までに15%以上削減。

2. 目標達成のための取り組み

- ① 電気使用量の削減(冷暖房・照明・自動販売機・OA機器など)
- ② 燃料使用量の削減(公用車・給湯器など)
- ③ 水道使用量の削減(トイレ・給湯器・洗面所などの節水)
- ④ 紙の使用量の削減(裏面使用・ペーパーレス化など)
- ⑤ 環境に配慮して製品の購入(低公害車・再生紙など)
- ⑥ 廃棄物の発生抑制・減量化(印刷物の見直し・リサイクル品使用など)

現在、各自治体が「地球温暖化対策推進計画」の策定に入っており、鹿児島市も専門部会が設置されております。

志布志市バイオマстаун構想

概要 家畜排せつ物、浄化槽汚泥などを乾式メタン発酵により電気、熱、堆肥原料に変換し利用する。また、林地残材、焼酎廃液、竹などから、木質纖維、家畜飼料原料及びバイオエタノールなどへの変換そして利用し資源循環型社会を構築する。

■バイオマスの現状

生ごみなどの一般廃棄物 一般廃棄物のうち、生ごみ・草木等の有機性廃棄物はすべて堆肥化され、市内の地元農家への販売や環境教育の一環として、主に市内の小・中・高等学校に配付を行なっている。なお、市民にこの堆肥を利用し循環型社会の必要性をアピールした「サンサンひまわりプラン」を提案している。

給食センターやホテル、飲食店等から排出される事業系食品残渣は、畜産資料として引き取られる分以外はすべて収集され、同じように堆肥化されている。

廃食用油

廃食用油は志布志市で年間46k lほど発生しているが約20k lが資源ごみ回収業者により収集され、バイオディーゼルフィーエル(以下、「BDF」という)*注1 製造が行われている。製造量は約19k l/年程度であり、全量が資源ごみ回収車の燃料として利用されている。なお、まだ各家庭から十分に分別排出されていないので、今後、分別排出されるよう周知を図っていく必要がある。

*注1 バイオ・ディーゼル・フューエル(BDF): 化石燃料(軽油)の代替燃料として、植物性の油を原料にしたディーゼル用燃料。軽油と比較して環境負荷が非常に少なく、CO₂の排出量はゼロカウントとなる。環境・健康にやさしく多方面から注目を浴びている。

未利 用 バイオマス

未利用のバイオマスとして竹(孟宗竹)が挙げられる。志布志市全体では、約143haの竹林があり、重量に換算すると約6,555tの竹が育成しているが、竹林のほとんどが、未整備で放置されているのが現状である。

このことは、隣接するスギ・ヒノキの人工林への侵入による生態系の破壊や民家等への進入の他、針、広葉樹の林地が竹林化し、山の保水力が低下すること等による自然災害などが懸念されるとともに、このままでは、更に竹林の密林化及び山林の荒廃化が進むことが考えられることから、未利用バイオマスである竹(孟宗竹)の早急な利活用対策が求められる。

続きを読む次号へ。

三味一之心

伝統と革新と継承と。

時は明治元年、西郷隆盛、大久保利通ら薩摩の先人たちが中心となり

明治維新を成し遂げた、その年。

私たち濱田酒造は、鹿児島県市来町湊町で

家業としての焼酎づくりをスタートさせました。

薩摩に生まれ、薩摩人の暮らしに育まれた焼酎づくりの伝統を受け継ぎながら、

つねに新しい時代の息吹を吹き込み続けてきた濱田酒造の歴史。

そこには、南に開かれた海から渡ってくる渡米の文化を積極的に受け入れ、

あらたな時代を拓くエネルギーを蓄え、

ときには波濤を越え異国へと旅だって行くロマンを生み出した、

薩摩人たちのたくましくもしなやかな精神が連綿と息づいています。

私たち濱田酒造の企業活動の精神は「薩摩スピリッツ」です。

それは、日本の国酒として世界に誇ることができる薩摩の本格焼酎づくりであり、

鹿児島の自然・歴史・風土に育まれた薩摩人の魂の継承でもあります。

本格焼酎 伝

黄麹で仕込み、
伝統製法で造られた焼酎。
スープとした上品な
のど越しが特徴の芋焼酎。



本格焼酎 海童祝の赤

黒麹で仕込み、
徹底した品質管理のもとに
造られた芋焼酎。
クリアなどのど越しと
薩摩芋を蒸したような甘い
香りが特徴。



傳藏院蔵



本格焼酎 福金山

金箔入りの本格芋焼酎。
ほのかに漂う芋の香りと
金箔がグラスの中で
幻想的な世界を描く。
独特のコクとキレがある
飲み口が特徴。

創業明治元年

 濱田酒造株式会社

本社：〒899-2101 鹿児島県いちき串木野市湊町3030 ☎0996-36-3131

傳 藏 院 蔵／〒896-0046 鹿児島県いちき串木野市西薩町17-7 ☎0996-33-5222

薩 摩 金 山 蔵／〒896-0053 鹿児島県いちき串木野市下名13665 ☎0996-21-2110

灼かな由来と
歴史から育まれた

天然のおいしい還元水

ひこざんしんすい



彦山神水は、鹿児島市春山にある「彦山神社」の鳥居の麓地下百四十mから
み上げた天然水です。雄大な自然の中にひつそりとたたずむ彦山神社から名
付けられた彦山神水は、まるやかでおいしい天然のアルカリ還元水(弱アルカ
リ)[pH 7.8]・還元電位(-50~-75mV)です。また彦山神水の原水は水質基準「四十
項目」すべてに適合するとともに、おいしい水の水質条件をすべてに当てはま
る水です。まさに自然が生み出した水の最高傑作品といえるでしょう。



大協株式会社

〒899-91-2704 鹿児島市春山町四六一一番地
TEL 099-278-7650

代表取締役社長 横山勝一郎
取締役会長 横山勝一郎

新規会員情報



- 企業名 旅のパートナー(株)
- 代表者 加治屋 敬行
- 住所 〒890-0064 鹿児島市鴨池新町5-6
県プロパンガス会館6F
- TEL 099-258-4649
- FAX 099-258-4633
- 業種等 旅行代理業

平成2年の創立以来、常に「ふれあい・思い出・感動」をキーワードに、お客様一人一人の、それぞれの目的にあった旅行をお客様と一緒に創り上げるという、他に類の無い手作りの旅行案内を心がけています。

鹿児島～上海を結ぶ直行便・中国東方航空の指定代理店や川内港発着の新鑑真号の旅客代理店をしており、特に中国への手配は県下でも有数の実績があります。

また、弊社独自の中国のパッケージ旅行(MUチャイナパック)もご案内しておりますので、是非パンフレットをご覧下さい。

国内・海外を問わず旅行全般の手配をさせていただいております。ご出張だけでなく、社員旅行やご家族・お仲間のご旅行の際には、是非お声をおかけ下さい。心をこめてお手伝いさせていただきますので、今後ともどうぞ宜しくお願ひ申し上げます。



- 企業名 インターマン(株)
- 代表者 上田平 重樹
- 住所 〒890-0053 鹿児島市中央町10番
キャンセビル6F
- TEL 099-285-1406
- FAX 099-259-4774
- 業種等 商社

業種等 1. オフィスに必要なものやサービスの企画、販売、提供。
(事務用品、家具やレイアウト、人材教育等)

2. 環境系の商品やサービスの企画、販売、提供。
(空気清浄機「ロマグリーン」、癒しグッズ等)

3. システム開発やコンテンツ作成。

弊社は、オフィス用品「アスクル」の販社事業を機軸に全国2万数千社の事業所とお取引きさせていただいている。鹿児島発かつ少人数による事業展開はWEBをはじめとした情報通信サービスの利用なしでは語られません。

又、海外経験を持つ社員も多く、常に世界に視野を向けた活動を行っております。

今後は、環境関連の事業を中心に「サービスを含むものづくり」を通して子孫々に誇れ、かつ世界に通用する人財を輩出する企業へと成長したいと考えております。私を含め、若輩者ではございますが今後ともご指導よろしくお願ひいたします。



- 企業名 (株)フジ技研カゴシマ
- 代表者 佐藤 正廣
- 住所 〒899-8606 曽於市末吉町深川11111番地6
- TEL 0986-28-0505
- FAX 0986-28-0506
- 業種等 自動車関係部品加工、検査治具設計製作

フジ技研カゴシマでは、徹底的に無駄を排除し、効率良く製造する為に、5S活動を通じ改善を行っております。

お客様に速く・安く・正確に製品を御届けするため、営業・業務・製造及びフジ技研(三重)において、データの一元管理によるトータルサポート体制を採っています。また、3次元システムを、生産に関わる工程に利用し、品質、コスト、納期、開発力などで、他社より競争力のある会社組織を目指しています。

製造する品目は、主に自動車を生産・開発する為に必要な製品及び部品を検査する検具を製作しております。

私達は、開発支援会社として製品開発を造形技術面と製造技術面から支援させて頂く事業を進めて参りました。

その源流となるものは創業当時からのCAD/CAMをベースにした造形技術と経験技術の蓄積による基礎技術が、もの作りに生かされおり、顧客の要望を総合的に生かす技術としてシステムaticなサポートが益々必要となって居ります今日多面的な支援体制を整え、貴社の技術支援会社としてその役割を大いに高めていきたいと考えて居ります。今後とも宜しくお願ひ致します。



- 個人会員 柳原 遼
- 住所 〒892-0871 鹿児島市吉野町3994-18
- TEL 099-243-8611
- FAX 099-243-8611
- 業種等 教授

鹿児島大学を定年退職するのを機会に、工業俱楽部会員となりました。退職後は、新規の水耕栽培法を県内に普及させたいという、希望をもっています。これは、鹿児島大学客員教授の矢野原良民氏が開発されたもので、無農薬・浸漬式水耕栽培による高栄養野菜の栽培を目的としています。御関心のお有りの方は、御連絡いただければ幸いです。皆様の御厚誼がいただければと思います。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



- 個人会員 阿邊山 和浩
- 住所 〒890-007 鹿児島市桜ヶ丘8-35-1
- TEL 099-275-5281
- FAX 099-275-5281
- 業種等 客員助教授

私たちは、肥満、糖尿病、高脂血症、動脈硬化や癌のようないわゆる「成人病」の発症・病状進展のメカニズムと、それに基づく治療的制御法開発についての研究を主に行っています。その他、機能性食品や生薬の作用・葉効発現のメカニズムに対するファーマコゲノミクスの解析(網羅的遺伝子解析技術を駆使した葉効・機能性探索)なども行っております。

私たちの研究成果を学術論文等だけではなく、「形あるもの」としての「地方から世界への情報発信」に実現できる様、努力していきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



- 企業名 ドリーきかく(有)
- 代表者 木村 由美子
- 住所 〒891-0113 鹿児島市東谷山5丁目18-8
- TEL 099-267-2932
- FAX 099-814-3015
- 業種等 「こんなのはほしい」考案・制作・販売業

多彩なジャンル(生活、教育、レジャー)に対応し「新しい発想で生まれた新商品を考案・製作・販売する会社です」

☆生活(健康の部)では沖縄で近年発見された、陸地の下に存在し、数万年よりサンゴ礁の地層に閉じ込められたミネラル豊富な海水「陸地サンゴ礁浸透古代海水」を使用した、様々な新商品の開発と販売を展開中です。(この海水を使っての研究、新商品開発等のお問い合わせも受け付けています)

☆教育(音楽の部)では1冊で幼児～大人まで適応し、浅くも深くも学べる、音符の出てこないピアノ教本を作成、シンプルなピアノレッスングッズも多数作成、販売中です。

☆レジャー(釣りの部)では、保存が効き、臭くない、現場で海水と混ぜるだけという3つの特徴を持つ他に類を見ない餌「いれ食い」を作成、販売中です。どうぞよろしくお願ひします。



- 企業名 (株)杵産業
- 代表者 杵 壽一
- 住所 〒899-1629 阿久根市塙浜町1-13
- TEL 0996-72-0757
- FAX 0996-73-2712
- 業種等 濃粉製造業、練製品製造販売

まるじゅ本舗のつきあげは、鹿児島・阿久根近海で獲れるアジ・エソなどの新鮮な地魚を使い、合成保存料を一切使わず、独自の製法と丹念な手作りで作りあげたヘルシーなふるさとの味です。産地直送をご家庭の食卓に、贈り物にどうぞ賞味ください。

【賛助会員】



- 企業名 商工組合中央金庫鹿児島支店
- 代表者 大野 晃一
- 住所 〒892-0847 鹿児島市西千石町17-24
- TEL 099-223-4306
- FAX 099-223-0858
- 業種等 金融業

商工組合は、全国ネットワークの中小企業専門の総合金融機関です。

中小企業の皆様の価値向上と持続的な成長の支援に向け、リレーションシップ・バンкиングを実践し、幅広い金融サービスを展開しています。

どうぞよろしくお願ひいたします。



- 企業名 (財)かごしま産業支援センター
- 代表者 吉留 史郎
- 住所 〒892-0821 鹿児島市名山町9-1県産業会館
- TEL 099-219-1270
- FAX 099-219-1279

当センターは県内中小企業の方々のニーズに対応し、新事業創出・経営革新・技術革新等への取り組みを強力に推進いたしております。

目標す方向は同じですので、今後とも工業俱楽部の皆様方とご一緒に、県内中小企業の発展・県産業の振興に努力してまいりたいと考えておりますので、ご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

会員募集中 年度初めに当たり、会員増強を！ お気軽に事務局へお問合せください！

区分	従業員割	会 費
1	個人会員	10,000円
2	1～5人	30,000円
3	6～10人	55,000円
4	30人未満	80,000円
5	50人未満	105,000円

区分	従業員割	会 費
6	100人未満	130,000円
7	300人未満	155,000円
8	500人未満	180,000円
9	1000人未満	205,000円
10	1000人以上	230,000円

※入会時の30,000円の入会金が必要
(賛助会員、特別会員、個人会員を除く)
※途中入会の場合は、会費は月割りとなります。
※詳しくは事務局へお問い合わせください。TEL 225-8012